

関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和5年度技術情報第13号（シロイチモジヨトウに対する薬剤効果試験）について（送付）

シロイチモジヨトウに対する薬剤効果試験について下記のとおり取りまとめましたので、周知およびご指導をよろしくお願いいたします。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（[www.jpnn.ne.jp/kagoshima](http://www.jpnn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。



令和5年度技術情報第13号  
（シロイチモジヨトウに対する薬剤効果試験）

シロイチモジヨトウの幼虫に対する各種薬剤の殺虫効果試験を行い、下記のとおり取りまとめました。今後の発生動向に注意し、防除指導の参考にしてください。

- 対象作物 ネギ
- 対象病害虫 シロイチモジヨトウ
- 供試虫および検定方法  
（1）供試虫（2齢幼虫または3齢幼虫）

害虫名	採集場所	採集作物	採集日	備考
シロイチモジヨトウ	南さつま市加世田	ネギ	令和5年7月21日	老齢幼虫を採集し、3世代を供試

- 検定期間 2齢幼虫 令和5年9月25～28日（マツチ乳剤のみ29日まで）  
3齢幼虫 令和5年10月1日～4日（マツチ乳剤のみ5日まで）

（3）検定方法：葉片浸漬法

所定倍数で希釈した薬液にキャベツの小葉（2齢幼虫2枚、3齢幼虫3枚）を30秒間浸漬して、風乾した。その後、濾紙を敷いた飼育容器（直径9cm）内に置き、幼虫を10頭放飼し、3反復で検定した。放飼後の飼育容器は25℃設定の室内に静置し、処理72時間後に生死（苦悶虫は死亡虫に含む）を調査した。なお、各薬剤の希釈液には展着剤（ベタリンA、2,500倍）を加用した。

4 供試薬剤

表1に示したネギに登録のあるジアミド剤3剤を含む14薬剤を供試した。

## 5 検定結果の概要

- (1) 2 齢幼虫（若齢期）ではベネビアOD, グレーシア乳剤, プレオFL, ディアナSC, ダブルシューター, アニキ乳剤, コテツFL, ランネート45DF, トルネードエースDFおよびマッチ乳剤は高い殺虫効果が認められた。このうちベネビアOD, ランネート45DFは 3 齢幼虫（中齢期）に対する殺虫効果は低かった（表 1）。
- (2) プレバソンFL5とフェニックス顆粒水和剤（ジアミド剤）は、前回の試験（平成29年度技術情報第10号）および今回の試験でも殺虫効果が低かった（表 1）。
- (3) アファーム乳剤は、前回の試験では殺虫効果は高かったが、今回の試験では 2 齢幼虫でも殺虫効果は低く、感受性の低下が示唆された。

## 6 検定結果の注意事項

- (1) 今回は室内検定であり、ほ場での防除効果を示すものではない。また、今回の試験は 1 ほ場からの採集個体群の殺虫効果であり、地域やほ場によって異なることが予想される。
- (2) 表 1 はネギの登録薬剤である。ネギ以外の作物で表 1 を参考にする場合は、作物や適用病害虫などの登録内容を必ずラベル等で確認する。

## 7 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の薬剤に対する殺虫効果は生育に伴って低下するため、若齢期に防除する。
- (2) プレバソンFL5とフェニックス顆粒水和剤（ジアミド剤）は本虫に対する効果の低下が懸念されることから、使用にあたっては留意する。
- (3) マッチ乳剤（IGR 剤）は、やや遅効的であるため、食害が進むことがある。
- (4) ベネビアODをハクサイに使用する場合、展着剤を加用すると薬害を生じる場合があるので、展着剤加用に当っては事前にその適否を確認する。

表 1 各種薬剤のシロイチモジヨトウに対する殺虫効果（ネギに登録、令和 5 年 10 月 30 日現在）

供試薬剤名	RAC コード	系統	希釈倍数	シロイチモジヨトウ	
				2 齢幼虫 <sup>a)</sup>	3 齢幼虫 <sup>b)</sup>
プレバソンFL5	28	ジアミド <sup>°</sup>	2,000	△	×
フェニックス顆粒水和剤	28	ジアミド <sup>°</sup>	2,000	△	×
ベネビアOD	28	ジアミド <sup>°</sup>	2,000	◎	△
グレーシア乳剤	30	イオキサリリン	2,000	◎	◎
プレオFL	UN	その他	1,000	◎	○
ディアナSC	5	スピノシン	2,500	◎	◎
ダブルシューター	5	スピノシン(+脂肪	1,000	◎	◎
酸グリセリド <sup>°</sup> )					
アファーム乳剤	6	マクロライト <sup>°</sup>	1,000	△	×
アニキ乳剤	6	マクロライト <sup>°</sup>	1,000	◎	◎
コテツFL	13	ピロール	2,000	◎	○
ランネート45DF	1A	カーバメート	1,000	◎	×
アグロスリン乳剤	3A	ピレスロイド <sup>°</sup>	1,000	×	×
トルネードエースDF	22A	チキサジソン	1,000	◎	○
マッチ乳剤	15	IGR	2,000	◎ <sup>c)</sup>	○ <sup>d)</sup>

採集作物：a) b) ネギ

表中の表記：72時間後の補正死亡率を×：0～30%未満，△：30～60%未満，○：60～80%未満，◎：80%以上で示す。

展着剤（ベタリンA：2,500倍）を加用

供試虫数：各薬剤30頭（10頭×3反復）

検定日：a) 令和 5 年 9 月 25～28 日，b) 同年 10 月 1～4 日，c) 9 月 29 日の結果，d) 10 月 5 日の結果